

## 令和4年度 第2回長野市青少年健全育成審議会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和5年2月21日（火）午前10時から正午まで
- 2 場 所 長野市生涯学習センター 4階大学習室1
- 3 出席者 委員7名、事務局10名
- 4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 教育次長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 議 事（議事進行 会長）
  - ア 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について
  - イ 少年育成センターの事業について
  - ウ 出前講座について
- (5) その他
- (6) 閉 会

### 5 会議録

#### (1) 教育次長あいさつ

市では、新型コロナウイルス感染症予防対策として行ってきた公民館・交流センターの利用者数の定員を半分にする措置について、3月1日より解消する。本格的に社会教育・生涯学習活動の再開が期待されるところだが、教育委員会としても引き続き感染防止対策を講じ社会教育、青少年の健全育成に努めていく。

さて、内閣府の令和3年度青少年のインターネット利用状況調査によると、小・中・高校生いずれも令和2年度より利用時間が大きく増加している。また、ネットの使い方は、小・中は動画視聴が最も多く、高校生はコミュニケーションとなっている。SNSをめぐる子どもたちのトラブルも増加傾向にあり保護者や学校が知らないうちに深刻な問題となるケースも後を絶たず、想定外の犯罪に巻き込まれるなど健全育成に係る大きな問題となっている。今後は、保護者、地域、事業者の理解や連携が重要となってくる。本日は少年育成センターで取り組んでいる情報モラルやメディアコントロールに係る出前講座の内容や青少年担当からの事業報告について、参会の審議員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。今後とも、本市の青少年健全育成に、委員の皆様により一層のご支援、ご協力を申し上げ、簡単ではあるが、あいさつとする。

## (2) 会長挨拶

先日テレビを見ていたら、チャットに質問するとAIが何でも答えてくれるという番組をやっていた。自分は大学の教員をやっているが、もう教員は必要ないとも思えてきた。学生にレポートを課しても、自分で考えたものか、AIで答えたものか区別がつかなくなってくると言われている。そもそも私がそれを知ったのがテレビということで、もはやそれ自体時代遅れなのだと実感した。世の中は、ますます快適で便利になっていくと思うが、若い人の教育上、あまりにも急激な変化はどういう影響を与えていくのかということが見えないところである。そこら辺を配慮した話が今日はあると思うが、情報モラルばかりでなく、我々審議会のメンバーがアンテナを高くして子どもたちの様子を見ていくことが審議会の役割と思う。そうした世の中の進歩や新しく変化することがある一方で、審議会のもう一つの役割として、時代は変わっても基本となる人間にとって必要なこと、例えばリーダーシップとか人間関係のあり方といったものの中で人は成長するといったことについて、便利なインターネットの発達した世の中であってもそれらは決して無くならないということ、受け皿としてそうした大事なことが必要不可欠であるということについても審議を深めなければいけない。ここにお集まりの皆様のお力を借りる中で、子どもたちの将来について貢献していきたいと思う。

## (3) 議 事

### 【報 告】

#### ア 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について

（説明：事務局）

（資料：令和4年度家庭・地域学びの課青少年担当の主な事業実施状況）

- ・青少年健全育成情報交換会、青少年健全育成作品コンクール、青少年健全育成フェスティバル、家庭教育力向上事業、成人指導者の会について
- ・親子わくわくフェスタ、子ども会リーダー研修会、シニアリーダー地区派遣事業、長野市子ども会キャンプ、長野市子どもわくわく体験事業補助金について

#### イ 少年育成センターの事業について

（説明：事務局）

（資料：令和4年度 少年育成センター事業実施状況、「出前講座」実績と予定）

- ・巡回指導活動、長野市青少年保護育成条例に関すること、少年相談活動、広報・啓発活動、研修活動について

#### ウ 出前講座について

（説明：事務局）

- ・研修会用映像資料の視聴

## 【質疑・意見】

### 報告事項アについて

(委員)

コロナ禍でも、頑張って取り組んでいただいていることに感謝する。資料だけでは計り知れない多くのことを青少年の健全育成に向けて実施していただきありがとうございます。

中でも、フェスティバルは子どもたちの作品コンクールで優秀賞となった作品を掲載した冊子を配布しているが、各住自協にも届けてもらい、地域の会合などで紹介し活用している。子どもたちの作品は、家庭教育や健全育成の上で大変参考になるので、できれば多くの人の目に触れるようにするとよい。冊子はどれくらいの数印刷しているのか。また、より多くの方の目に触れるよう、どんな方策を考えているのか教えてほしい。

もう一つ、親子わくわくフェスタについて、これもとても良い取り組みだが、参加した400名を超える皆さんが、旧長野市のエリアの方が多いのか。もし可能なら3年に1度くらいは篠ノ井交流センターなども会場として使うことで参加者の幅も広がるのではないかと。また、経費はどれくらいかかっているのか。

(事務局)

冊子についてはフェスティバルの参加者に配布している。今年は200名であったが、例年は500名ほどの参加者になる。その他にも市内の各住民自治協議会の青少年育成担当者、市立公民館や交流センター、市内小・中学校とそのPTA会長などに計800部ほどを例年では配布しているが、今年はコロナの影響があり450部ほど配布した。また、フェスティバル終了後の1週間は市役所の市民交流スペースで優秀作品の展示も行っている。「広報ながの」11月号でも、ポスターと標語の作品を掲載している。今後は市のホームページに作品を載せることも検討していきたい。

親子わくわくフェスタの経費については、各団体よりボランティアで参加いただいているため、講師への謝礼金の80,000円を経費としている。参加者の募集については、基本的に長野市内にお住まいの方に対して「広報ながの」やホームページで募集している。ほとんどの講座に定員を上回る応募があり抽選により参加者を決定している。どちらの地区から多く参加されたかについて資料はないが、今後調べて参考とさせていただき、今後に生かしていきたい。

(委員)

親子わくわくフェスタについて、子どもたちにとってとても興味深い講座がありよいと思うが、開催時期が11月中旬となっているが、なぜこの時期なのか教えてほしい。長期休み中だと子どもにも保護者にも参加しやすいと思うが。

シニアリーダーの減少について、高校生がこうした活動から離れてしまっている原因について分かれば教えていただきたい。

#### (事務局)

親子わくわくフェスタの開催時については、今後また検討させていただきたい。協力いただいている信州大学、長野高専の都合もありこの時期になっていると思う。多くの方に参加できる時期も考慮していきたい。

シニアリーダーズクラブの会員数減少については、高校生の生活が多忙なこと、受験勉強や部活とクラブの活動を両立させることが困難になっていることがある。週に1回、学校が終わった後の夕方に開く定例会の出席や、夏の子ども会キャンプの前の準備など忙しい。参加してくれる高校生は積極的な人が多いので、部活もやりながらシニアリーダーもやりという場合が多く負担となっていることもある。

また、ジュニアリーダーと呼ばれる小・中学生向けの研修会も年間数回行っているが、コロナ禍のため研修会が中止になったり、参加者が減少したりして、その結果高校生になってシニアリーダーを志望する子どもが減ってしまっていることも原因の一つと考える。

さらに、各地域には大人が組織する育成会があっても、子どもたちが作る子ども会がある地域はほとんどないため、研修会に参加した小・中学生が地域に帰り活躍する子ども会の活動がないということも影響していると考えられる。今後は各地区の育成会からジュニアリーダーの研修会に参加することを働きかけていただいたりして、その結果シニアリーダーの育成につなげるといった方策も考えていきたい。

#### 報告事項イ・ウについて

##### (委員)

少年育成センターの取り組みについて、とてもよい紹介があった。育成センターに係る取り組みは非常に範囲が広く、今後も更にますます拡大していくであろうと思われるが、様々な工夫や研修が大人にも必要となってくる。そうした中で、ネット関係に係る問題は60代からその上は一番分からない分野であり様々なトラブルに巻き込まれる可能性が高い。そのため、知らないことが多く子どもの親の世代の人に危険性を訴えることもできないが、小・中・高校ではネットやスマホに係るトラブルについて育成センターの出前講座や育成センターだよりを活用してとてもよく研修をしている。大変だとは思いますが是非継続して取り組んでいただきたい。

私もかつて巡視をしたことがあるが、夏休みなどに委員の方たちや学校職員が巡視をされている。コロナ禍でなかなか出来なかったかもしれないが、基本であり原点となるのでぜひこれからも継続してほしい。

警察との連携を育成センターの方たちもやっていると思うが、原点である巡視をして暴走族や少しアウトロー的になってしまっている一部の子どもを救い、指導してほしい。

(事務局)

委員の方から育成センターの取り組みについてエールをいただいたと感じた。目に見える犯罪は減ってきている。しかし、それが子どもたちにとっていい方向に向いているのかというと、ただ目に見えなくなっているだけであったり、様相を変えてきているだけのことだったりだとしたら、子どもたちに対する応援の仕方を変えていく必要がある。今はSNSへの対応が一つの柱であると思っている。SNSの研修も1回で終わるのではなく、2年目3年目と繰り返してお伝えし、一緒に考えていくことが大切である。

巡視については、回っていくと確かに子どもたちの姿は見えなくなっていることに気がつく。住自協の方からも、巡視に行っても子どもに会えないという感想をよく聞く。その中でどういうことをしたらよいかというと、見えた子どもたちに積極的に声をかけることをしていくと、逆に子どもたちは声をかけられるのを待っている、そんな気さえする。決して私たちから逃げていないと思う。また、お店の方とも話をして情報交換をしていくことがとても大事だと思う。コンビニでそわそわしている子どもがいるけれど、どこかおかしいなと店員さんが思っていたら、現金に換えられるカードを詐欺師に送るように言われていたことが分かり、店員さんによってそれを止めることができたという事案もある。そういうことがあるので、情報交換することが大切と感じている。子どもをめぐる環境のうち、特に人的環境、子どもの背中を押して自立できるようにする人がとても大切である。

(委員)

出前講座は今年度本校でもお願いをして実施していただいた。保護者と子どもと一緒に話を聞いていて家に帰って一緒に話ができる点がとても効果的でよい。沢山の申し込みがあつて大変かと思うがたくさんの学校を回っていただけると助かると思う。学校の教員が指導するのと違い、外から講師が来ていつもと違う雰囲気の中で子どもたちが襟を正して聞き入る姿が見られとてもよかった。一度指導するだけでなく、繰り返し話をすることが効果的であると思う。

もう一点、家庭のルールを考えましょうとあるが、中学生くらいだと、自分たちでネットモラルのルール作りをするという活動ができると思う。中学校で、生徒会の生活委員会が中心になり、自分たちが発信をする形でネットモラルについて家で話し合ってきたことをもとに学校独自のルール作りをして発信し、さらにそれを学区内の小学校にも発信するという取り組みをした。受け身のルールより自分たちで考えさせることは中学生でもできると思った。

(事務局)

中学生なら生徒会を中心にルールをつくり考えていく、これはとても大事なこと。小・中・高の子どもたちがスマホの使い方について情報交換ができれば、いいと思う。小学生は中学生から、中学生は高校生から、高校生は若者から話が聞けることができればすごく

繋がりのあるコミュニティーができると思う。それを聞いている大人がそこから学んでいくことが出来たら素晴らしいと思う。いいアイデアがあれば教えてほしい。

(委員)

出前講座のDVDを見させてもらって、小・中学生向けにはとても良いと思う。幼稚園の保護者の方たちも夕飯時とか参観日の時とか、下の小さい子どもをあやしたり、静かにさせるとき自分が動けるために、スマホで動画を見せたり、タブレットでDVDを見せたりと利用しているので、幼稚園の保護者向けの出前講座もあるとありがたい。

(事務局)

まったく同感に思う。色々な所に研修に行くと、例えば東御市では、誕生した時からメディアの中にどっぷりとつかっている子どもたちに対して、親へ切れ目なく研修を行っていきましょうと取り組んでいる。子どもを抱きかかえたお母さん方が中心となって研修が行われている。切実な声から行われている研修だと思う。現在長野市では小学校1年生からの研修であるが、声を広げていき他機関とも連携を深めていきたい。

**全体をとおして**

(会長)

技術の変化は激しいので、次々と新しい使い方が出てきて対応するほうも大変だが、我々大人が子どもから学ぶようにしたり、問題があれば子どもから発信したりすることや、違う部署とも連携をすることも大切。本日は大変参考になる話を聞いた。市の方が頑張っていた内容や、委員の皆さんからもすばらしい発言があった。